

川越氷川神社は、古墳時代6世紀半ばに創建されました。のちに大宮の氷川神社を分祀(ぶんし。のれん分け)しました。

荒川流域一帯に200社以上の氷川神社が鎮座しています。

室町時代1457年、太田道真・道灌父子が川越城を築城して以来、藩領の守護神として歴代城主により篤く崇敬されました。

幕府にとり川越は重要で、川越城主には8名の大老・老中が配されています。

祭神は出雲系の神々

祭神は、スサノオ、クシイナダヒメ、アシナヅチ、テナヅチ、オオナムチ(大国主命＝オオクニヌシ)の5柱で、出雲系の神々です。これらの神々は一大家族ですので、家庭円満の神々です。

クシイナダヒメ(奇稻田姫)は、スサノオ(素盞鳴)の妻で、稻田の女神です(クシイナダ→「櫛＋稲田」)。アシナヅチ(足名椎)が父、テナヅチ(手摩乳)が母です。両親が、クシイナダヒメの脚を、手をなでるようにいつくしんで育てました。「大和なでしこ」の語源です。

スサノオは「スサぶる」荒川をなだめる

氷川神社は、氾濫を起こす荒い川である荒川流域に200以上あります。

「スサぶる」荒川をなだめるのが「スサノオ」です。アマテラス(皇室の祖先神)の弟です。

出雲で八岐大蛇(やまたのおろち)を退治し、クシイナダヒメと結婚し、出雲国を開きました。水を司る神でもあります。

大鳥居と勝海舟の扁額(へんがく)

木製の大鳥居は、日本最大といわれています。

高さ15メートルです

時の鐘も15メートルです。太田道灌の築いた富士見櫓(やぐら)も15メートルほどでした。奈良の大仏も15メートルです。

鳥居には、勝海舟の筆による「氷川神社」の扁額(へんがく)が飾られています。

手水(てみず)は参拝前に

参拝前に手水舎(ちょうずしゃ)で身を清めます。

- ・右手でひしゃくを取ります。左手をゆすぎます。
- ・左手のひしゃくで、右手をゆすぎます。
- ・右手で左手のひらに水を注ぎ、口をゆすぎます。

拝殿での礼拝の作法

拝殿では、神前で「二拝・二拍手・一拝」をします。

- ・「二拝」では、90度に近く深く頭をさげます。
- ・「二拍手」のあと、両手をそろえて祈りを込めます。
- ・最後に深く頭をさげます。

幣拝殿は拝殿と本殿の間に

幣拝殿(へいはいでん)とは、拝殿と本殿の間にあり、神様に対して拝礼する場所です。

平安朝の建築様式による典雅麗姿をただよわせています。

氷川神社の本殿 その1

川越城主・松平齊典(なりつね)が寄進したものです。

江戸時代の名工技が息づく本殿は、県の重要文化財です。大森貝塚発見のモースも絶賛しました。

本殿外回りの壁面は精緻な彫刻で飾られています。

本殿の腰廻りの羽目には10カ町の山車の人形の彫り物が廻らされています。

氷川神社の本殿 その2

本殿上段には川越城主につながる源氏の祖先が配されています。

源義家:源義家が勿来(なこそ)の関で山桜を詠じている構図。社殿東面。

源頼朝:源頼朝が祭礼で千羽鶴を放つ姿。社殿北面。

牛若丸:牛若丸(義経)が浄瑠璃姫に出会い横笛を吹く姿。社殿西面。

川越氷川神社の文化財

- ・川越氷川神社の本殿:埼玉県指定文化財
- ・八坂神社の社殿:埼玉県指定文化財

- ・川越氷川神社の例大祭(川越まつり):「川越氷川祭の山車(だし)行事」は、ユネスコ無形文化遺産、国指定重要無形民俗文化財
- ・川越氷川祭礼絵巻など9点:氷川神社の社宝

八坂神社(摂社)

本殿左隣にあります。

1637年に3代徳川家光は、江戸城に東照宮を建てました。東照宮はのちに空宮(からみや)となり、1882年川越氷川神社に、縮小移築され、八坂神社となりました。

江戸城内の宗教建築の貴重な遺構です。

京都の八坂神社の神様で、祭神はスサノオ、クシイナダヒメです。

八坂祭は7月14日にとり行われます。

【※】喜多院にも、江戸城から移築された家光誕生の間と春日局の間があります。これらも江戸城の唯一の遺構です。

川越市護国神社

川越市護国神社には、西南ノ役以後の川越出身軍人などの霊がまつられています。1935年の改築記念には、山本五十六(いそろく)も参列しました。

例祭日は、4月12日です。

神社前の第1駐車場横には、「川越市慰霊塔」が設けられています。

128号 ★★ ★★ ★★ ★★ ★★ ★★ ★★ ★★ ★★ ★★ ★★ ★★ 次号 2128回

太田道灌の和歌と手植えの矢竹

江戸城・川越城を建築した大田道真・道灌は、川越氷川神社を篤く信奉し、川越城の総鎮守としました。道灌は当社に和歌を献納し、境内に矢竹を植樹しました。矢竹は本殿の右横に群生しています。

柿本人麻呂神社は水の神

柿本人麻呂(かきのもとのひとまる。660年頃 - 720年頃)は、万葉集第1の歌人で、歌聖といわれています。万葉集に100ほどの歌を残しています。

柿本人麻呂は、遠祖の綾部家が戦国時代に丹波国(京都府)から川越に移住してきたことからまつられるようになりました。川越城主が手厚く庇護してきました。

柳田国男、折口信夫、梅原猛は、人麻呂が水の神であることについて論じています。

人麻呂神社は、歌業、学問の神である他に、「火止まる」、「人産(う)まる」として火防の神、子宝祈願の神ともなっています。

柿本人麻呂祭は、4月18日にとりおこなわれます。万葉集の愛読者や研究者も参列します。

山上憶良(やまのうえのおくら)の歌碑

柿本人麻呂神社の右脇ににあります。

第19代山田衛居(もりい)宮司ら川越の文学愛好家たちが建立しました。

山田衛居は明治初期の国学者、歌人で一級の文化人でした。

境内では薬草風呂も

氷川神社にはかつて御手洗川(みたらしがわ)があり、水が豊富でした。境内には水脈があります。水は心身を清め、邪気をはらいます。

かつては本殿裏手のケヤキからは絶えることのない水が湧いていました。

明治中頃まで境内には薬草風呂「氷川百草湯」が設けられていました。

舞殿(まいどの)

お囃子や奉納芸能などが行われます。

社務所

祈願の受付やお守り縁結びのお守りなどを扱っています。縁結び玉。さくらさく守り。えんむすび。縫いつけまもり。美守(うつくしまもり)。であいこい。ゆかり守り。よりそい守り。縁結びの絵馬。赤縁筆。(受付は、毎日9時～17時)

戌岩(いぬいわ)で安産を

手水舎(ちょうずしゃ)の後方に井戸、小川があり、戌岩が鎮座しています。

犬はお産が軽く、多産です。子授け、安産をねがって、子授けの人麻呂神社とともに祈願されます。

人形流しでけがれ払い

戌岩(いぬいわ)近くの小川では人形流しがおこなわれます。

水はけがれをはらう力があるとされ、けがれを人形の紙に移して、流し去ります。

絵馬参道は願い事のオンパレード

絵馬の馬は神が乗られる生き物です。願い事を記した絵馬がトンネルをつくっています。

絵馬のトンネルは、縁結びのパワースポット川越氷川神社の名物となっています。

神木まわり

日本では、「山川草木 悉皆有魂(しっかいゆうこん)」といい、森羅万象に神が宿ると考えられています。木や岩に祈ることにより、心が休まります。

川越氷川神社でも、神木まわりがおこなわれます。本殿裏の樹齢600年を超えるケヤキのまわりを、8の字を描くように回ります。

多羅葉(たらよう)は、「葉書(はがき)」の語源

多羅葉(たらよう)は「葉書(はがき)」の語源です。葉の裏を尖ったもので傷つけると字が書けます。本殿裏、絵馬参道の左にあります。

境内ご利益(ごりやく)めぐり

氷川神社。ご神木。稲荷神社。三峯神社。八坂神社。松尾神社。戌岩(いぬいわ)。子の権現社(ねのごんげんしゃ)。

摂社・末社 その1

本殿裏の境内林には数々の摂社・末社が安置されています。

氏子が納めたものもあります。川越地域の様々な信仰が氷川神社に取り込まれています。

稲荷神社：五穀豊穰・商売繁盛の神。京都の伏見稲荷大社が本社。キツネが従者。

日吉(ひよし)神社：王城鎮護の神。従者はサル。

加太粟島(かだあわしま)神社：婦人病の治癒・安産・手芸の神。和歌山市の淡嶋神社より。

摂社・末社 その2

菅原神社：菅原道真(天神さま)。学業成就・受験合格の神

松尾神社：酒造りの神様。京都の松尾神社が本社。

馬頭(ばとう)観音：馬などの動物の守護仏。もとは仏教の菩薩。

八幡(はちまん)神社：祭神は応神天皇。武家の氏神。勝負事、武道、スポーツの神。京都の石清水八幡宮から分祀。

小御嶽(こみたけ)神社：富士山五合目の小御嶽神社の神様。

春日神社：春日大社の神。文武の神。お使いは鹿。

子ノ権現社(ねのごんげんしゃ)：足腰の神。足腰が悪いときは、祠にある履物を一組いただき、治ったら履物を二組奉納。

疱瘡(ほうそう)神社：病氣平癒の神。疱瘡とは天然痘のこと。

摂社・末社 その3

巖島(いつくしま)神社：海上安全の神。祭神のイチキシマ姫は、氷川神社の主祭神スサノオの剣から生まれました。イチキシマが巖島に。

水神社：当社の境内にあった御手洗川(みたらしがわ)の水の神。水は生命の源。

雷電神社：川越城の落雷によりまつられるように。昔は雷は「神鳴り」でした。

三峯神社：秩父の三峯(みつみね)神社の神様。盗難、災難から守る神。

蛇霊(じゃれい)神社：蛇は神の化身。脱皮をすることから再生の象徴。

摂社・末社 その4

御嶽(おんたけ)神社：長野の御嶽山(おんたけさん)をまつっています。御嶽山周囲の八海山神社、三笠山神社も。

琴平(ことひら)神社：香川の金刀比羅宮(ことひらぐう)の神。航海や水上の安全を守る神。

川越まつり(川越氷川祭り)

川越まつりは、例大祭(10月14日)、神幸祭(じんこうさい。10月15日)と山車などの「川越まつり」からなります。

神幸祭では、神輿(しんよ。ご神体のみこし)の行列が、神社本社から町々を巡行します。

川越まつりは10月の第2土曜日と翌日曜日におこなわれます。山車(だし)などの付け祭(つけまつり。余興)の「川越氷川祭の山車(だし)行事」は、ユネスコ無形文化遺産、国指定重要無形民俗文化財です。

川越まつりの特長

江戸「天下祭」にみられた江戸文化の伝統を残していることがこのまつりの特長です。

精巧な人形を乗せた絢爛豪華な山車(だし)が、蔵造りの町並みを中心に、町中を巡ります。

最大のみどころは「曳っかわせ(ひっかわせ)」です。山車が、笛、太鼓、鉦、踊りで競い合い、まつり人たちは提灯を高々と振り上げ、歓声をあげます。

川越まつりは松平信綱が奨励

川越まつりは、川越城主・松平信綱が、江戸の天下祭(将軍上覧の祭)の様式を奨励し、神輿(みこし)などの祭礼具を寄進したことから盛んになりました。

信綱は、新田開発、野火止用水の他に、城下町の体裁を整え、城郭の拡張整備、町割りを行いました。

藩や町が安定繁栄するには、町内に祭礼組織を作り、藩の武運長久と領内の繁栄を祈ることが効果的でした。

また、川越に尽くした3代将軍・家光、小姓の時からともに仕え殉死(じゅんし)した堀田正盛、阿部重次への哀悼の意を込めたものでしょう。島原の乱もありました。川越まつりは華やかである必要がありました。

川越まつり***見どころ 用語 山車一覧 [川越まつり 公式サイト](#)

【これから】

氷川会館

良縁祈願祭。安産祈願。お宮参り。七五三。ランドセルお祓い式。成人奉告祭。厄祓い。交通安全祈願。商売繁盛祈。病気平癒。健康祈願。合格祈願。勝負祈願。還暦祝などの寿祭

神前結婚式

縁結び玉。結い紐(ひも)。赤ちゃん結い紐
300名までの披露宴をおこなえる結婚式場です。

アサヒノや

【これから】

三芳野神社

【これから】

川越氷川神社 (Kawagoe Hikawa-jinja Shrine) の概要

創建 古墳時代6世紀半ば

祭神 スサノオ(素盞鳴)、クシイナダヒメ(奇稻田姫)、アシナヅチ(足名椎)、テナヅチ(手摩乳)、オオナムチ(大己貴命)の5柱

月次祭(つきなみさい) 毎月1日、15日午前8時半

所在地 〒350-0052 埼玉県川越市宮下町2-11-3。049-224-0589

交通 川越駅東口 東武バス7番 宮下町下車

本川越駅 東武バス5番 宮下町下車

【後記】

本稿作成にあたり、山田禎久(よしひさ)宮司にお世話になりました。取材・文責は桑原政則、写真・取材は石山貞夫(川越市文化財保護協会副会長)です。ありがとうございました。